

こども教育会議 会議録 (速記メモ)

<p>日時 令和3年11月17日(水) 14:58~16:03</p>	<p>場所 武雄市役所 災害対策本部室</p>	<p>出席 小松市長、松尾教育長、大庭教育長職務代理者 教育委員(馬場、山口、牟田、岡本、田中、大渡、井手、野田) 秋月こども教育部長、諸岡こども教育部理事 教育総務課(木村課長)、 こどもの貧困対策課(古田課長、野田参事、藤井係長)、 庭木企画部長、企画政策課(弦巻課長、中村係長、西村)</p>
<p>1. 協議件名</p>		<p>第27回こども教育会議 (こどもの貧困対策事業の取り組みと課題)</p>
<p>議事録</p>		
<p>内容</p>	<p>1 開会(進行:庭木企画部長)</p> <p>2 議事(議事進行:小松市長)</p> <p>(1) こどもの貧困対策事業の取り組みと課題</p> <p>① 話題提供</p> <p>武雄市において令和3年12月に策定予定である「第二期 武雄市子どもの未来応援計画」に関して、これまで行ってきたワーキンググループや会議、実態調査等の取り組み状況の報告を行った。</p> <p>② 意見交換</p> <p><出席者の意見></p> <ul style="list-style-type: none"> ・貧困世帯のご家庭は夜間遅くまで働き、子どもだけで過ごす時間が多くなるため、スマホなどを長時間使用し生活が乱れる傾向にあると思った。親以外の方で子どもを見られるような居場所づくりが大切だと思う。その居場所については、親の送迎の心配をしなくて済むように子どもたちが自ら歩いて行ける範囲に作るべきだと思う。そのためには、地域との協力でより良いものにしていく必要がある。 ・朝食の大切さを学ばせるためにも、こども食堂などやってもらえたら助かる。 ・北方や山内の学習支援体制の状況について⇒(こどもの貧困対策課)ひとり親家庭を対象に市内3箇所(18時~20時まで、週1回。料金は無料。資格は問わずボランティアにて行っている)で開催している。北方は、子育て支援センターにて行っている。また、放課後補充学習支援活動も行っている。 ・市内のこども食堂の開催状況について⇒(こどもの貧困対策課)こども食堂の団体としては把握していないが、こどもの居場所(よりみちステーション、Aスタ、中野区、川良区等)にて不定期に食の支援が行われている。 ・(こどもの貧困対策課)コロナ禍によるこどもの影響については、「体を動かす機会が減った」、「友人等との交流の機会が減った」という意見があった。また、世帯収入への影響については、「世帯年収が少なからず減少しそう」という意見があった。 ・子どもの貧困は家庭の貧困に直結する。武雄市の支援体制について理解している方が少ないと感じるため、分かりやすい情報提供をする必要がある。例えば、困ったときに連絡できるよう相談内容に応じた担当課の一覧を示しておくとか。市報やHPの掲載だけではなく、学校から保護者への配布をお願いしたい。 ・学校の空き教室において、制服や体操着のお譲りが渡せるようにするとかはどうか。そもそも体操着が必要なかとも考えた。⇒(こどもの貧困対策課)制服のお譲りは各学校やPTA主催で各町において行われている。⇒(教育長)私服のほうが逆にお金がかかるという事例もあった。制服があったほうが保護者も安心と考える。 ・学習格差も気になる。塾や家庭教師費用への補助金などの支援も必要かもしれない。 ・貧困家庭が地域から孤立しやすいと聞く。学校や教育委員、民生委員等の選択肢もあるということ伝えて、相談しやすい方を見つけてもらえたらと思う。 ・学校で地域と協力して、「朝ごはんの日」などを月1回でも設けて、温かいごはんを食べる機会を設けるのもよいのではないかと考えた。 	

- ・支援の壁(「意識」、「情報」、「支援」)がある。武雄市はこれだけたくさんの支援体制があるので、これらを上手に組み合わせればよいと考える。⇒(こどもの貧困対策課)福祉課に「子ども家庭総合支援拠点」という相談窓口を設置しているので、ここに相談してもらえたら担当課につなぐことができるかと思う。また、健康課と子育て支援センターにて「子育て世帯包括支援センター」機能も設けている。窓口が分からない場合は、まずは福祉課、健康課、こども未来課に相談してもらえたらと思う。
- ・義務教育後の支援が大きいと思う。早い段階からサポートする組織整備が必要と思う。
- ・学校をプラットフォームにというのは良いが、実情として現場は関われば関わるほど無力感を感じる。総合的にサポートできる体制を作るべき。
- ・小学校、中学校、高校と段階が上がる事に、実態が見えづらくなる。伴走型支援の中でどのような体制整備を行えばよいか。笑顔のコーディネーターなどの情報を繋げていって継続的に支援していく必要がある。
- ・貧困世帯の実態が見えていない。保育園や幼稚園での先生と保護者との近い関係性を小学校へ繋げる。武雄市の支援内容を低年齢の時から多くの人に伝えていきたい。
- ・核家族化の影響もあり地域とのふれあいも減り、自己肯定感も低くなるが、学校や地域と連携した義務教育体制が整備されているので良い。
- ・貧困の子どもがスポーツ文化に触れられないということはあってはならない。将来の課題として総合型スポーツクラブで受け入れる体制を作るといったことも良いのではないかな。
- ・ひとり親世帯だけではなく、コロナ禍による収入減の世帯に対する相談窓口があればと感じた。
- ・学校中退者の問題をどうしていくか。武雄市として就職するまで支援していく必要があると思った。
- ・ヤングケアラーが貧困以上に見えていない。今後、ヤングケアラーの把握にも取り組んでいく。

<市長の発言>

- ・高校の中退問題については、実態把握も含め市として向き合う必要がある。
- ・ヤングケアラー問題は大人の引きこもりにも関連している。なるべく早めの支援を行い、「見える」体制を作っていくことが今後の課題である。
- ・貧困対策に関しては、どこでどのような支援があるのかという情報を分かりやすく伝えるべき。一人でも多くの人に知ってもらう必要がある。
- ・今日いただいた意見を参考に、子どもの未来応援計画をより充実させていきたい。

3 閉会(進行:庭木企画部長)